

令和元(2019)年度 教員免許状更新講習シラバス

■講習名	【必修】教育の最新事情
■時間数	6時間
■受講対象者	全教諭
■担当講師	吉原 恵子（兵庫大学生涯福祉学部教授） 北島 律之（兵庫大学共通教育機構教授） 松田 信樹（兵庫大学生涯福祉学部准教授） 加藤 和代（兵庫大学健康科学部准教授）
■評価方法	6講習の筆記試験の成績により評価します。各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。
■教材等	必要に応じて資料を配付する。

■講習の概要

多くの教育問題が発生している我が国の現状を踏まえて、様々な教育学的・教育心理学的理論や実践例を援用しつつ以下の課題について受講生と共に考えます。すなわち、教職についての省察、子どもの変化についての理解、教育政策の動向についての理解、学校の内外での連携協力についての理解などについて、教員に必要とされる共通の今日的な教育課題、さらには最新知識・技能の理解を深めます。

講習Ⅰ 世界の教育改革と新学習指導要領で育む資質・能力

教育改革と新学習指導要領の流れを概観し、今後の学校・園における教育のあり方を考える。
また、教育改革の考え方を教育実践にどのように組み込んでいくのかについて考える。

■成績評価の観点

教育改革と新学習指導要領の流れについて要点を整理して説明できる（知識・理解を評価）。

〔担当：吉原 恵子〕

講習Ⅱ 学校と教員への社会の期待

さまざまな教育問題の背景には、社会の変化がある。社会の変化が子ども、家庭、学校、地域等にどのような影響を与えてきたのかについて考察するとともに、学校・園と教員に対する社会からの期待にどう応えていくのかを考える。

■成績評価の観点

社会の変化がどのような教育問題を生み出しているのかについて説明できる。
また、学校・園や教員はどのようにしてそれらと向き合い、社会の期待に応えていくのかについて考えをまとめることができる（知識・理解、思考・判断・表現を評価）。

〔担当：吉原 恵子〕

講習Ⅲ 脳科学と心理学からみた子どもの発達

近年の脳科学の知見を心理学的に解釈しながら、子どもの発達を考える。特に、知能と深く関わる「ワーキングメモリ」、他者とのコミュニケーションと深く関わる「心の理論」について、心理現象とその神経基盤を解説する。多様な子どもたちへの対応を行う上で有益である心の科学的理解に主眼を置く。

■成績評価の観点

知能やコミュニケーションにかかわる脳の仕組みと、それに関わる心理的な現象を、子どもの発達の観点から理解できていることを重視する。具体的には、脳における神経伝達物質やシナプスについての基本事項、ワーキングメモリや心の理論の概念、心の発達にともなう脳内の変化などから出題する。

〔担当：北島 律之〕

講習Ⅳ 最近の不登校をめぐって～これからの支援～

不登校児童生徒数が依然として高水準で推移しているなか、今回の学習指導要領の改訂では、総則の特別な配慮を必要とする児童（生徒）の項に「不登校児童（生徒）への配慮」が新たに加えられた。この視点を取り入れながら、これからの不登校支援について展望する。

■成績評価の観点

近年の期待されている不登校支援を踏まえ、自身の教育活動から学校における不登校支援体制や未然防止について考えることができる。

〔担当：加藤 和代〕

講習Ⅴ 発達障害のある子どもの理解とその支援

ASD(自閉症スペクトラム)、ADHD、LD等の発達障害の特性と特別なニーズを持つ子どもたち一人ひとりに対応した支援と教育的配慮の基本について概説する。また、今後の支援の方向性を示す改訂学習指導要領の内容にも触れる

■成績評価の観点

各発達障害の特性について理解し、自身の教育活動のなかで具体的支援や配慮について説明することができる。

〔担当：加藤 和代〕

講習Ⅵ 教師が身につけたいカウンセリングマインド

幼児や児童・生徒の気持ちに寄り添った教育を行う上で必要となるカウンセリングマインドとは、どのようなマインドかを概観する。子どもたちの複雑で微妙な心の動きに共感的な理解を示しつつ、如何に関わっていけばよいかを、事例を通して考える。

■成績評価の観点

カウンセリングマインドの概要を理解し、子どもとの関わりの中で、カウンセリングのマインドとテクニックをどのように活用するべきかを考えることができる。

〔担当：松田 信樹〕